

本棚 ぶらり

テーマ 自転車



『世界に学ぶ 自転車都市のつくりかた』

みやた こうすけ

宮田浩介／編著

おばたわ かこ みなむらた ず え

小畑和香子・南村多津恵・

はやかわようへい

早川洋平／著

学芸出版社 2023 年



子どもも大人も使える、便利でエコで健康的な移動手段である自転車。これまで多くの都市が車移動を前提として開発されてきたが、近年はその一部で自転車を中心とする自転車都市を目指す動きが加速しているという。この自転車の利用を伸ばす環境整備を「ニーズ」「デザイン」「都市戦略」の面から解説している。日本でも自転車道や自転車レーンが整備されつつあるが、公共交通と自転車の組み合わせに限ってみれば、さいたま市も車依存度の低さは先進事例とされるコペンハーゲンやベルリン、ニューヨーク、ロンドンよりも先を行っているという。今後の更なる自転車都市への発展は、脱車依存の世界になりえるのか、それらを考える様々なヒントとなるだろう。ところどころで紹介されている、世界の様々な形状の自転車のデザインも見ていて楽しい。

『スポーツ自転車でいまこそ走ろう!』

やまもと しゅうじ

山本修二／著

技術評論社 2022 年



スポーツ自転車というと、とにかく速く走り「競う」というイメージがあるが、本書では「競う」ということをやめ、ユルく気ままに走ることの魅力とそのために必要な情報を中心に書いている。自転車旅＝小さな冒険だと説く著者は、自転車を自分のペースでゆっくり走らせれば、風を肌で感じられ周囲の風景や季節の変化を感じることができると紹介している。自転車への荷物の積み方、疲れにくく長く乗るための簡単な自転車のカスタマイズ方法など、自転車を気軽に楽しみたい人にも、ちょっと凝ってみたい人にも楽しめる一冊。

『ツール・ド・フランス』

やまぐちかずゆき

山口和幸／著

講談社 2013 年



100年以上の歴史を持つツール・ド・フランスを、伝統・文化・レースへの戦略・選手たちのエピソードなど多方面から記した本。フランスでの現地取材歴を20年以上持つ著者による描写には、節々から大会を巡る雰囲気を読み取られる。

特に出場選手のエピソードは興味深い。開催地フランスの出身選手としては最後の王者であるベルナル・イノーや、後年ドーピングで優勝をはく奪されたアームストロングに挑み、敗北を喫した選手など。様々なエピソードの中には、さいたまクリテリウム優勝経験を持つ新城幸也の記載もある。

ツール・ド・フランスに興味を持った人への入門書としておすすめの一冊である。

『果てまで走れ! 157 カ国、 自転車で地球一周15万キロの旅』

おぐちりょうへい

小口良平／著

河出書房新社 2020 年



「自転車で世界一周!」そんな途方もない夢をこの本の著者は成し遂げた。

8年半かけて訪れた国は157カ国、過酷な環境や感染症にかかることは日常茶飯事で、強盗に遭ったり警官に遊びで銃を向けられたりしたこともある。

ただ、それ以上に道中会う人からもらった優しさがある。インドネシアでいろんな料理をごちそうしてくれた現地の青年、過酷なアルプス越えを共にした日本人サイクリスト、他にも多くの人との出会いがある。文中、著者は彼らに感謝の気持ちを率直に記す。人の優しさの価値と共に、それを受ける側の心遣いも教えられる。

自転車と共に世界を感じた著者の旅の記録である。



ちょこっとゆかり文学クイズ

Q: 第170回芥川賞を受賞したさいたま市出身の作家は誰でしょう?

①安堂ホセ ②九段理江 ③三木三奈